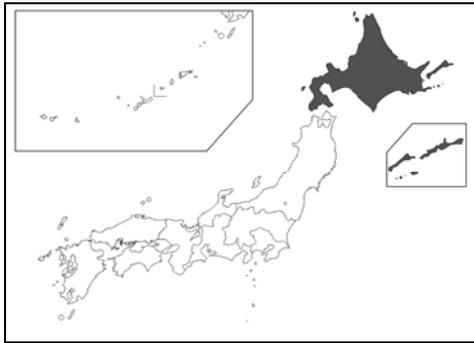


3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成25年2月)	今回(平成25年5月)	
景況判断	下げ止まっている	緩やかに持ち直し	
鉱工業生産	下げ止まりの兆し	緩やかに持ち直し	
個人消費	底堅く推移	持ち直し	
雇用情勢	緩やかに持ち直し	改善の動き	

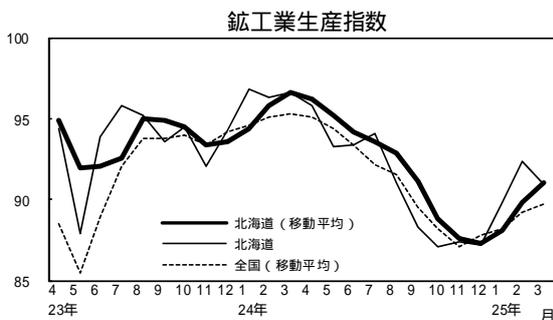
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産、水産物の水揚量ともに前年を下回っている。

1～3月期には、生乳生産は、牛乳向け等が減少したため、総量では974,958tと前年比0.5%減となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ、するめいか等が減少したため、前年比38.2%減となった。

(2) 鉱工業生産は、緩やかに持ち直している。

1～3月期には、食料品は、発泡酒やビールのほか、クリームやチーズの生産が伸びたこと等から増加した。パルプ・紙は、印刷用紙(塗工)の販売不振が続いていること等から減少した。鉄鋼は、日中関係が落ち着いた影響から建設機械や自動車向けの特殊鋼棒鋼の生産が伸びたこと等から増加した。電気機械は、スマートフォンやデジタル家電向けの無線通信装置や集積回路の生産が低調だったこと等から減少した。金属製品は、受注の伸び悩みや設備のメンテナンスの影響等から減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
食料品	23.9	1.1	0.4	1.2	0.4	0.9
パルプ・紙	10.7	2.7	0.5	0.4	1.2	4.4
鉄鋼	8.6	15.3	30.2	25.8	4.7	4.5
電気機械	8.4	5.0	1.7	17.1	4.8	20.4
金属製品	8.0	8.9	17.1	29.3	54.7	28.8
鉱工業	100.0	4.3	4.4	3.0	2.8	1.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

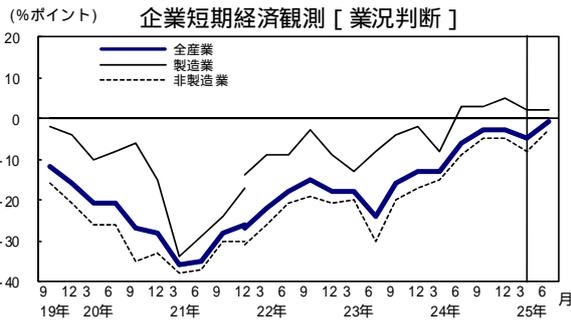
2. 1～3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。

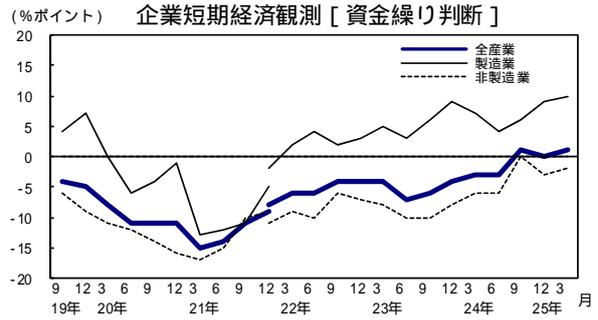
2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。

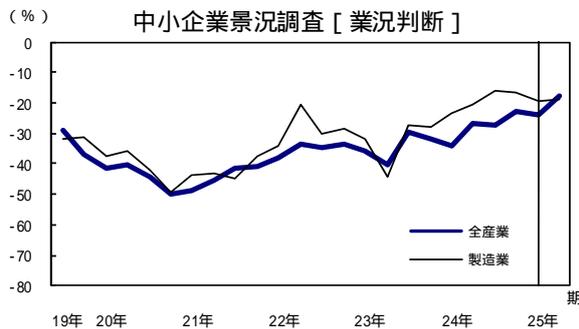
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年6月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。



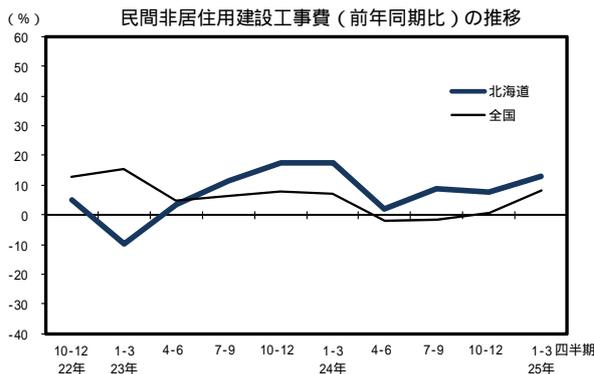
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]
「景況感については北上するまでのタイムラグがあるが、関東圏向け建築物の輸送が動いている(輸送業)」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。

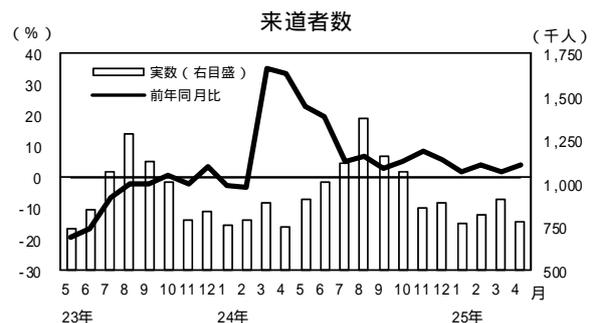


企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績見込み	25年度値
全産業	16.8 (1.4)	2.5
製造業	57.7 (2.3)	7.7
非製造業	7.6 (0.4)	12.9

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。電気・ガスを除く。

(5) 観光は、緩やかな増加傾向にある。
来道者数は、1月は中国、四国地方からの修学旅行生が増加したこと等から増加した。2月はさっぽろ雪まつりと3連休が重なったこと等から増加した。また、1~3月期について、昨年同時期にはなかった格安航空会社の就航の影響により総じて増加した。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.7%増、2月は同1.1%増、3月は同0.1%増となった。

大型小売店販売額

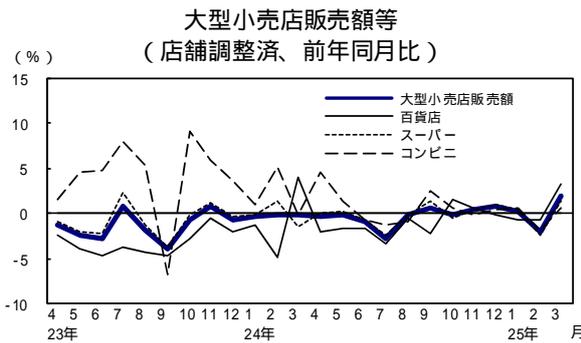
百貨店は、1月は、大雪の影響で来客数が減少したこと等から前年を下回った。2月は、営業日が前年より1日少なかったことや、大雪の影響で来客数が減少したこと等から前年を下回った。3月は、春物衣料や高額品の動きが良かったこと等から前年を上回った。

スーパーは、大雪の影響により来客数が減少したこと等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

北海道地域の家計動向関連DIは、54.7となり前月より1.0ポイント低下した。

「冬季の売上の増加は大雪という季節要因によるもので、景気の押し上げによるものではなかった (タクシー運転手)」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。

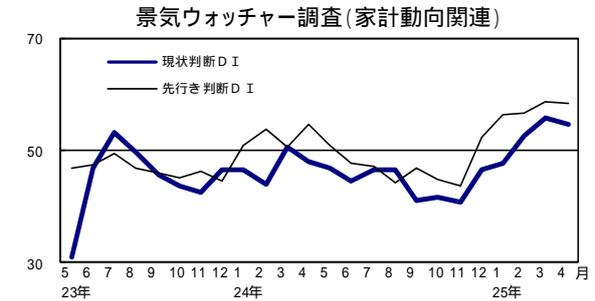
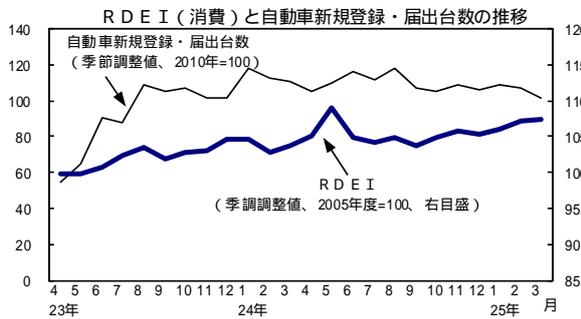


	25年1-3月	25年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.4	0.7	1.1	0.1
大型小売店 (*2)	0.1	0.2	2.1	1.9
百貨店 (*2)	0.7	0.7	0.7	3.3
スーパー (*2)	0.1	0.5	2.5	1.4
コンビニ (*2)	0.1	0.7	1.8	0.7
乗用車 (*3)	7.2	6.2	4.8	8.9
(季節調整値) (*3)	0.8	2.2	1.4	5.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整済、前年同期(月)比 (%)

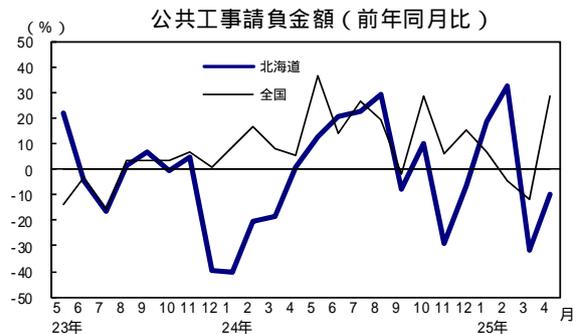
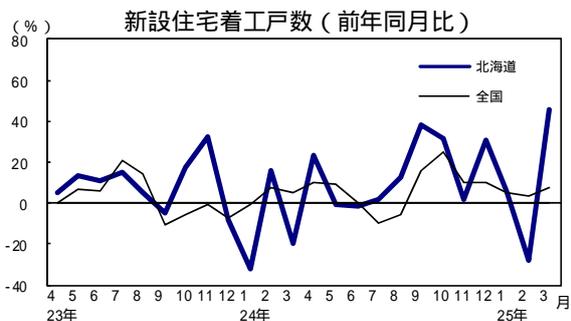
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家が前年を下回ったものの、持家、分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

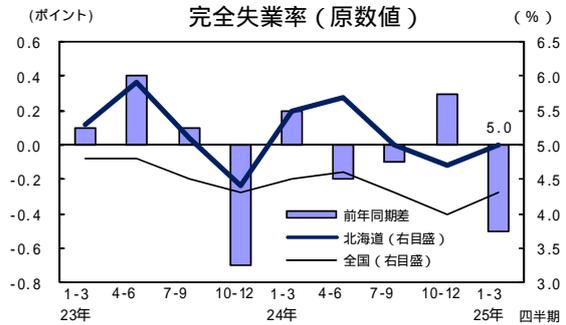
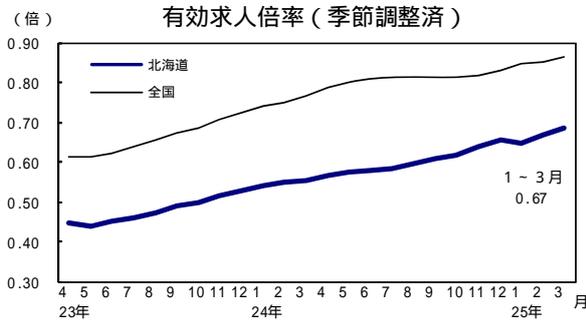


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、改善の動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

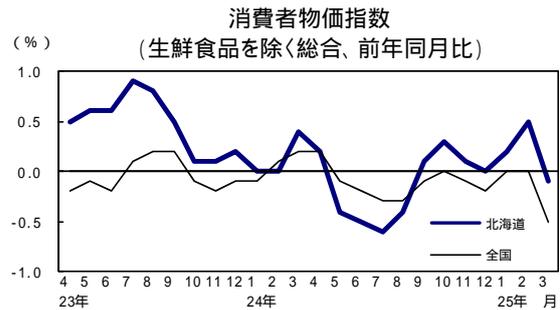
「3か月前と比べると求人広告件数が1割以上増加している。特にサービス業、建設関連産業の伸びが目立っている (求人情報誌制作会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年4-6月	7-9月	10-12月	25年1-3月	25年4月
倒産件数	124	108	90	110	31
(前年比)	0.8	3.8	11.8	18.5	24.4
負債総額	262	145	216	343	5,145
(前年比)	26.3	49.6	49.6	41.4	8,079.6



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・景気回復の報道が連日なされていることで、市内の消費に対する気運もかなり高まってきている。特に、特選ブランドと呼ばれる海外有名ブランドの売上が好調で、全体の数字の押し上げに寄与している (百貨店)。

<先行き>

・景況感の回復基調をとらえた企業から、設備投資や事業拡大に基づく案件が増加してきている (通信業)。

景気ウォッチャー調査 (合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

